

# 町内の保育所、小・中学校で「満了式・卒業式」

## 3月13日 「只見中学校卒業式」

只見中学校では、40名の卒業生が学び舎を巣立ちました。

今井仁校長が一人ひとりに声をかけながら卒業証書を手渡し、「卒業生の輝かしい未来を願います」と式辞を述べました。

また、卒業生を代表し、鈴木伶菜さんが答辞を述べ、感謝の気持ちを伝えると、会場は涙につつまれました。



▲卒業生一人ひとりに手渡された卒業証書

◀答辞を述べる鈴木伶菜さん



▲(写真/明和小)卒業生、在校生による別れの言葉

▶(写真/明和小)卒業証書を受け取る児童



## 3月23日 「3地区小学校卒業式」

3月23日、町内の各小学校において卒業式が行われました。

明和小学校では、卒業証書を受け取った13名の児童一人ひとりが、ステージ上で将来の夢や中学校での抱負などを披露し、式辞で渡部早苗校長は「明和っ子69名を引っ張ってくれた6年生の皆さん、これからも努力と感謝の気持ちを忘れず頑張ってください」とエールを送りました。

## 3月25日 「3地区保育所満了式」

3月25日、町内の各保育所で満了式が行われました。

朝日保育所では、5名の児童が満了を迎え、五十嵐朝日振興センター長から保育証書を受け取った児童は、その証書と共にお母さんのもとへ歩み寄り、ありがとうと感謝の言葉を添えて手渡しました。また、満了式後には鉄棒や跳び箱、縄跳びなどを行い、成長した自分の姿を披露し、会場は感動につつまれました。



▲記念品贈呈を受ける児童

◀感謝の気持ちと一緒に、お母さんへ保育証書を手渡す児童

## 地域住民の人権を守る

### 人権擁護委員に目黒香都子さん(坂田)

前任者の任期満了に伴い、平成29年4月1日付けで、目黒香都子さんが法務大臣から人権擁護委員に委嘱されました。人権擁護委員は、人権相談会の開催や、人権に関する啓発活動を行うなど、日々問題解決に取り組んでいます。今後は只見町担当として、鈴木厚さん(只見)、渡部等さん(小川)と一緒に活動されます。



目黒香都子さん



▲(3月5日開催/朝日のいいもの集めちゃった市)  
自分で作成した割り箸鉄砲で景品を狙う子どもたち

## 地域性豊かな催し披露 各振興センターのお祭り開催

3月、各振興センターにおいて、作品・民芸品などの展示や手芸・ストラックアウトの体験など地域性豊かな催しを行う「各振興センターまつり」が開催されました。

どの会場も多くの人で賑わい、餅つき大会や各催しなどを楽しまました。中でも明和公民館まつりは今年開催30周年を迎え、節目の年を来場者とともに祝いました。



▲(3月11～12日開催/明和公民館まつり)  
11日に行われた餅つきセレモニー



▲(3月12日開催/只見振興センターまつり)  
落語を披露する鳥喰亭山翔さん

## 明和地区の伝統芸能を次の世代へ 明和小学校「伝統芸能発表会」

2月27日、今年で3回目となる「伝統芸能発表会」が明和小学校で開かれ、児童の雄姿を一目見ようと多くの保護者や地域の方々が来場しました。

この発表会はESD(将来にわたって持続可能な開発のための教育)の取り組みの一環で、現在の6年生が4年生の時に始まりました。明和地区に伝わる伝統芸能の継承として大きな意味を持ち、各地区の保存会の皆さんが協力して行われています。

発表会では、1・2年生が「大倉八木節」、3年生が「小林早乙女踊り」、4年生が「梁取神楽」を各々披露し、伝統の中に児童のアレンジが加わり、会場は笑いと感動につつまれていました。児童が発表をとおし、各地区の伝統芸能に触れることで、地域全体の伝統芸能の保存と継承に繋がっていくことを大いに期待させる発表会でした。



▲(写真/3年生による小林早乙女踊り)テレビ局も取材に訪れた伝統芸能発表会



## 第20回文化庁メディア芸術祭

# 昭和漫画館青虫館長の高野行央さんが功労賞を受賞!

3月16日、第20回文化庁メディア芸術祭の受賞者が発表され、只見町在住の昭和漫画館青虫館長の高野行央さんが「功労賞」を受賞しました。今回、「シン・ゴジラ」や「君の名は。」といった大賞作品などと一緒に受賞され、9月には受賞式と共に、受賞作品を鑑賞する総合フェスティバルも開催されます。

高野さんは、東京や京都のマンガ図書館でも目にできない昭和初期の貴重な貸本漫画などの漫画本を開架式(利用者が自由に閲覧できる方式)で並べ、自助努力により11年間運営されてきました。それらの活動がマンガ研究へ貢献しているとして評価され、今回選ばれました。高野さんは「この受賞を契機に、只見町が全国に知られ、町民の皆さんも更に元気になってもらいたい」と話され、受賞を喜びました。



▲功労賞を受賞された昭和漫画館青虫館長の高野行央さん

## 只見町ブナセンター

# 自然観察会「冬のブナ林で野鳥を探そう!」



▲積雪下の植物を観察する参加者

3月19日、ただみ観察の森・楢戸のブナ二次林で自然観察会を開催しました。この観察会は、冬の自然と只見町の最大の特徴である多雪を学ぶことが目的です。同時に、双眼鏡を使った野鳥観察やスノーシューによる雪上歩行を体験しました。楢戸の林道付近に到着すると、さっそく伊南川の上を巡回するオジロワシを発見しました。林内では、このブナ林の成り立ち、ブナの樹や冬芽の特徴、積雪深の測定や、積雪下の植物を掘り出しての観察などを行いました。未就学児から年配の方まで、町内外の20名が参加し、只見町の冬の自然を五感で体感できた観察会となりました。

## 只見町ブナセンター

# 写真教室「只見の雪を記録しよう～写真による自然観察会～」

3月4日、ただみ・ブナと川のミュージアムで写真家の猪又かじ子氏を招いて写真教室を開催しました。今回の写真教室には、町内外合わせて11名が参加し、ミュージアム周辺を猪又氏のレクチャーを受けながら、景色や、雪の作る造形、動物の足跡などを撮影しました。後半は、ミュージアム内のセミナー室に場所を変え、参加者の撮った写真について、良く撮影できた点や、さらに工夫できる点などを講評いただきました。皆さん熱心に聞き入っており、表情豊かな只見の雪景色を撮影することができた写真教室となりました。



▲只見の雪を撮影する参加者

## 涙が出るのは人生を丁寧に生きている証拠 「只見町文化講演会」開催

3月12日、(株)グローバルキャリア代表取締役の的場亮さんの講演会(教育委員会主催)が只見振興センターで開かれ、約50名が参加しました。講演会では、東京オリンピックを迎える2020年から教育が「答えを覚える時代」から「答えを探しに行く・違いを考える時代」に変わり、将来は人口知能などの進化に伴い、人間らしさやコミュニケーションがより重要になることを話され、素直に感謝することの大切さなどが動画と共に伝えられました。



▲「顔の表情が人生の履歴書」など多くの金言が伝えられ、感動で涙あふれる講演会となりました

## 雪国の先進地から奥会津地域の可能性を学ぶ 歳時記の郷・奥会津シンポジウム

雪国の魅力を活かした地域づくりについて考える「歳時記の郷・奥会津シンポジウム」が3月11日、季の郷湯ら里で開かれました。第1部では雪国観光圏代表理事の井口智裕さん(新潟県湯沢町)が、世界に向けた雪国文化の可能性を講演し、第2部では奥会津トータルアドバイザーの清水慎一さん(元JTB常務)と、湯ら里の目黒支配人をはじめ奥会津の宿泊施設の代表4名が、外国人観光客との向き合い方などについてパネル討論が行われました。

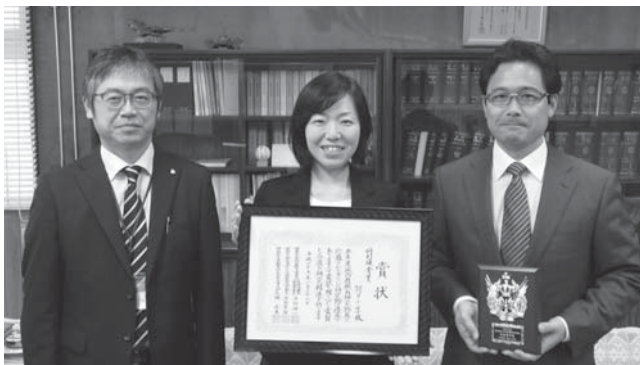


▲雪国文化の可能性を講演する雪国観光圏代表理事の井口さん

## 南会津小中学校教職員研究物 朝日小学校が「特別優秀賞」受賞

県市町村教育委員会連絡協議会南会津支会などが主催する「南会津郡小中学校教職員研究物」の審査会が1月26日に行われ、朝日小学校が学校の部「特別優秀賞」に選ばれました。

学力向上に向けた研究実践の成果として、学校の部21点、個人の部3点の応募があり、朝日小学校は「つながりの中で育む只見愛」をテーマに応募し、南会津町立館岩中と共に特別優秀賞に選ばれました。



▲特別優秀賞に選ばれた朝日小学校の橋本先生(右)と太田先生(中)、教育委員会の増田次長(左)

## 雪上で熱戦が繰り上げられる！ 只見スノースポーツフェスティバル開催

3月4～5日、ただみコミュニティクラブが主催する「只見スノースポーツフェスティバル2017」が季の郷湯ら里で開かれ、雪上バレーや雪上フットサルなどが行われました。大会には約300名が参加し、バレーボール元全日本代表の泉川正幸選手や井上謙選手、そして元なでしこジャパンの海堀あゆみ選手や小野寺志保選手が招待アスリートとして訪れ、大会は大いに盛り上がりました。



▲熱戦が繰り上げられた雪上バレー